

1. 授業のねらい・概要

国際取引法の基本事項を理解することを講義の目標とします。今度、デパートやスーパーで買い物をするときに、商品の原産地や製造地を意識してみると分かると思いますが、今や「made in Japan」の商品の方が少ないかもしれません。多くの商品が、国際取引を通じて外国から輸入されたものです。「国際取引法」の講義では、そのような国際取引に関係する法律について解説します。

前期の「国際取引法A」では、国際取引法とは何かということを明確にし、次に、国際取引紛争の解決方法と紛争に適用される法律（準拠法）を決定する国際私法などについて説明します。また、今後、ますます重要性が増してくるとされる英文輸出入契約書等の教材やDVDを使用して、分かり易い講義を心掛けます。

2. 授業の進め方

- ① 50～60分 配布するレジュメに従って、説明や補足をしながら講義を行います。
- ② 30～40分 配布する練習問題に回答してもらいます。また、質問を受け付けます。

3. 授業計画

1. 講義紹介	9. 輸入通関
2. 国際取引法の定義	10. インコタームズ（定型取引条件）
3. 法意識	11. 荷為替信用状決済
4. 国際裁判管轄	12. 法律英語（民事裁判関係）
5. 国際商事仲裁	13. 国際取引契約の締結まで
6. 国際私法①（当事者に関する準拠法等）	14. 英文輸出入契約書①（取引条件等）
7. 国際私法②（契約の効力に関する準拠法等）	15. 英文輸出入契約書②（紛争解決条項等）
8. 輸出通関	

4. 到達目標

- ① 国際取引法の概略を理解すること。
- ② 英文契約書を理解できるようになること。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

- ① 各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読んでくこと（30分程度）。
- ② 各講義の内容に関係するニュースを、新聞やインターネットなどで見た場合は、読んで概要を説明できるようにすること。

6. 成績評価の方法・基準

積極性 20～40%（受講態度等） ＋ 期末試験 60～80%（筆記試験）

A 80点以上 B 70～79点 C 60～69点 D（不可）60点未満

7. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

- ① 佐野寛『国際取引法』（第4版）有斐閣 2014年（2700円）
- ② 石川明編『フレームワーク法学入門』不磨書房 2007年（2400円）
- ③ 岩崎一生『英文契約書』同文館 1998年（2940円）

8. 受講上の留意事項

- ① 法律英語を使用するため、英語の基礎力が備わっていることが望ましい。
- ② 他の迷惑となる行為、態度不良、遅刻、中途退席等の目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。